様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　７ 月　３ 日現在

機関番号：３２６６３
研究種目：基盤研究(B)（特設分野研究）
研究期間：2014～2019
課題番号：２６３１０１０８

研究課題名（和文）高齢犯罪者の自己像の認識と、かれらの再社会化への挑戦に関する実証的研究

研究課題名（英文）A Research on the Recognition of "Self-image" of the Elderly criminals, and on their Challenge to Re-socialization to the Society.

研究代表者
細井　洋子（HOSOI, YOKO）

東洋大学・人間科学総合研究所・客員研究員

研究者番号：８００７３６３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、わが国の安全・安心を考える上で喫緊の課題は「高齢者の犯罪・累犯」について、国際的な視点を加え、その実情・動向について追試すると同時に、当事者の高齢女子犯罪者(受刑者)に焦点に、かれらの犯罪に至るまでの過程・それに対する意識・犯罪から脱却する過程について、かれらの「生の声」(記述方式)を聞き、実証的に明らかにした。以下の点を示すことができた。①全国の施設(刑務所など)に在所中の65歳以上の女子受刑者166人について、自己認識(自分の性格や生活状態についての意識23項目)の調査データを基に、多変量分析とクラスター分析により4群を抽出し、4類型の特徴に注視し、相互に比較した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、わが国において顕著である、高齢者の犯罪の増加・高止まり傾向に注目し、その背後に何があるかについて明らかにすることの意義を求めた。特に、高齢者の犯罪の多くが万引きや詐欺といった比較的軽微な財産犯罪に見られ、しかもそれが繰り返し行われることへの問いかけを行った。研究を進める中で、とりわけ高齢女子の犯罪者が置かれている社会的背景(時代性)に注目し、社会的構造（人口構造の大きな歪み、家族形態の変容、日本型福祉の変化、日本型雇用の特徴など）の特異性が、わが国の高齢女性の犯罪を生み出す上で少なからぬ影響を与えてきたことを読み解くことができた

研究成果の概要（英文）： This study is to put focus on the Life world of the elderly prisoners (aged 65＋)and their prospects for reintegration and resettlement in their daily lives. Through the questionnaire research for the elderly female criminals for 162, we got the precious results from the data. We took the method of multi-factor analysis and cluster analysis, and drew out the two axis, activated and human relations. We made four cluster and compare the research data among 4 clusters.

研究分野：犯罪社会学

キーワード：高齢犯罪者　再犯防止　ライフヒストリー　国際比較　高齢犯罪　自立支援　累犯窃盗　累犯薬物

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

る１．研究開始当初の背景
（1）当初は、諸外国と比較して、日本の高齢者の犯罪が人口比においてかなり多いことに注目し、その実態を詳細に把握することに終始した。一方で量的に特徴を概観し、他方で新聞記事から検索し、個別の事例を追い、日本の特徴を浮き彫りにした。
（2）外国の研究者の指摘、日本は全般に刑法犯が少なく、近年は減少しているのにもかかわらず、高齢者の犯罪が増えていること、それも多くは万引きなどの財産犯であること、女性の犯罪が増えていることを受けて、全国の受刑者に質問紙調査を実施し、かれらの「生活世界」および「生活意識」を調べるようになった

２．研究の目的
(1) 犯罪発生率の低い日本において、高齢者の犯罪が増加していることに目を向け、その背景をさぐることを意図した。
(2)増加の背景を探っていく中で、彼らが置かれている社会的背景、とりわけ時代性と空間性に注目し、社会の中で彼らが犯罪という選択肢を選ばざるを得ないような要因を探るために、彼らが記述した「自己報告」を丁寧に読み解き、理解を深めることを目途とした。
(3) 日本国政府(法務省)は、2017 年に「再犯防止計画」を提唱し、数値目標を掲げ、果敢にそれに向かうことを声高に叫んだが、犯罪は社会と個人の相互作用から生まれるのであり、個人の「人間性」を軽視し、社会の安全を重視する姿勢には一抹の不安を覚える。高齢者が自らの犯罪にどのように向かい合っているか、を実証的にあきらかにすることこそ喫緊の課題であると考える。

３．研究の方法
(1)実証的なデータを重ねて、それを忠実に読み解くことによって、研究者が抱いている「思い込み」や「先入観」を極力追い払い、データ(受刑者の生の声)に基づいて研究を進めることを心掛けた。
(2) 三つの仮説（高齢者犯罪が増えたこと、その多くが財産犯で累犯であること、高齢女子の犯罪が目立つこと）に応えるべくデータを集積し、時には諸外国の状況と比較しながら、国際的な視点を加えて考察を深めた。

４．研究成果
(1) 高齢女子受刑者と一般高齢女子の「自己認識」に関する質問による類型化
　高齢女子受刑者の類型化は、彼らの実像をより深く知るために、28 年と 29 年の 2 回の「高齢女子受刑者調査」における「自己認識」(性格や生活行動に関する 23 項目について自分が該当すると思うものを選択）の回答データを元に多変量分析とクラスター分析を行った。
　一般女子の類型化は、女子受刑者との相違を見出すために、29 年に一般の男女 1000 人を対象に Web 調査を行い、同一の質問と同一の手法を用いて類型化を行った。
　類型化は、「40 歳～65 歳未満」(女子受刑者 N=519、一般女子 N=202)、「65 歳以上」(女子受刑者 N=162、一般女子 N=187）の２つの年齢階層別に、それぞれで 4 つの類型を作成した。分析軸とした他の質問とのクロス集計によるデータと合わせて各類型の特徴を抽出した。
　4 つのグループの分析軸の意味付けは概ね、「人との関係」、「仕事の意欲」「生きがいや張り合い」などのプラス項目と「孤立」「悲観的」「人を警戒」などのマイナスの項目の関係で説明できる。また、それぞれで抽出した「第１～４群」は、社会的にも自分自身も充実している「安定型」、人間関係や暮らしは十分ではないが生きがいや仕事の意欲もある「自立志向型」、人間関係や社会への関心が狭く生活の張りも意欲も少なく孤立し自立できない「孤立・他者依存型」、最も多数で構成される群で、自分や社会に対して主張がなく、ある程度の暮しを維持しているが特別に満足や不満を持たない弱い基盤の中でくらす「不安定型」に分類することができた。
①「40 歳～65 歳未満」の類型
①-1　女子受刑者：23 項目の認識項目の個人別回答の類似性を示す説明軸では、1 軸は「生きがいや張り合」⇔「意欲なし、悲観的」の（活性軸）と。2 軸の「人間・社会関係」⇔「疎外感」（社会・人間関係）の（人間関係軸）との関係で示されている。
　この項目別の個人別のスコアを元にクラスター分析し 4 群を作成した。
　「第 1 群」(54.3%)：不安定型：構成は半数を占める。半数は勤労者で 6 割は夫・パートナーがいる。周囲や社会に関心は薄く、自分のことにも無頓着で、ほとんどの人が生きがいや張り合を持っていない。前向きな考え方が少なく生活や家計の安定感に乏しいことが特徴である。
　「第２群」(5.6%)：自立志向型：構成は 1 割以下と少ない。7 割は夫・パートナーがいるが 7 割は家族の問題に悩んでいる。性格は悲観的で閉鎖的で悩みも多いが、社会の人間関係は悪くなく、生きがいや張り合いもあり、夫だけでなく仕事や生活保護などで自分流に自立した生活をしている。
　「第３群」(23.7%)：孤立、他者依存型：「無職が多く、半数は夫・パートナーがなく経済にも恵まれず悩みも多い。ほとんどの人が「生きがいや張り合い」がなく暮らし、悲観的で閉鎖的で人や社会に頼ることが多い。
　「第４群」(16.4%)：安定型：「7 割以上が勤労者で生活基盤は安定している。人望もあり何事にも意欲的で悩みも少ないが半数は「薬物犯」で、「窃盗犯」は 28%と少ない。「薬物犯」は経済

分類：構成比（%） 太文字の数値:検定1%未満 年齢不明、対象質問無回答者は除外		40歳～65歳未満の高齢女子受刑者			
		全体 N=519			
		第1群	第2群	第3群	第4群
（母数:実数）		282	29	123	85
構成比（%）		54.3	5.6	23.7	16.4
調査時の平均年齢　（歳）		49.9歳	46.8歳	48.3歳	50.2歳
就労	定職に就いていた	19.9	17.2	5.7	42.4
	有職・派遣やパートやアルバイト	26.6	20.7	13.8	29.4
	働いていなかった	51.8	51.7	**69.9**	28.2
その理由	病気で働けなかったから	26.0	33.3	**43.0**	8.3
	お金に困っていなかったから	12.3	13.3	4.7	8.3
	生活保護を受けていたから	47.9	**73.3**	47.7	37.5
属性	自分や家族の持ち家やマンション	27.3	27.6	25.2	36.5
	夫・パートナーがいた	**62.4**	72.4	54.5	**67.1**
困ったことや悩み	自分の健康	37.8	**57.7**	55.0	31.4
	家族の健康	25.2	**53.8**	27.0	30.0
	家族との関係	37.4	**73.1**	**55.0**	38.6
	毎日の生活費	32.9	42.3	55.0	30.0
	自分の性格	17.1	**46.2**	**48.6**	17.1
	孤独なこと	15.9	**61.5**	49.5	15.7
	信頼する相談相手がいないこと	22.4	53.8	45.9	18.6
犯行時の生活費	仕事の収入	40.1	41.4	26.8	70.6
	年金	5.7	6.9	8.1	1.2
	預貯金	11.0	17.2	13.0	14.1
	夫・パートナーの収入	30.5	37.9	18.7	43.5
	生活保護	34.8	48.3	**45.5**	25.9
収入	個人の平均月収指数(平均=1)	0.94	1.59	0.80	1.24
	個人小遣い月平均指数(平均=1)	1.00	1.15	0.79	1.21
	世帯平均月収指数(平均=1)	1.03	0.67	0.74	1.24
犯罪の原因	自分が我慢できなかった	41.1	62.1	**63.4**	41.2
	お金が欲しかった	24.1	27.6	25.2	22.4
	品物が欲しかった	15.2	27.6	**30.1**	10.6
	薬をやりたかった	**24.1**	**31.0**	28.5	22.4
出所後の生活費	仕事の収入	61.3	62.1	52.8	**80.0**
	生活保護	28.4	37.9	40.7	25.9
	年金	9.6	6.9	9.8	11.8
	預貯金	14.2	17.2	16.3	18.8
	夫・パートナーの収入	21.6	27.6	18.7	32.9
希望する暮らし	再び犯罪をしないようにする	74.5	82.8	**85.4**	78.8
	他人に迷惑をかけないようにしたい	67.0	75.9	73.2	78.8
	家族と一緒にくらしたい	53.9	55.2	52.0	71.8
	仕事中心に生活する	**46.1**	51.7	**49.6**	**69.4**
罪名	窃　盗	36.5	34.5	43.1	28.2
	薬　物	45.4	41.4	40.7	50.6
クラスター分析に使用した主な質問	家のためにすることが多い	34.0	**58.6**	28.5	**62.4**
	自分から周りの人たちと離れる	22.3	**72.4**	**56.1**	14.1
	一人ぼっち	10.6	48.3	**48.0**	**8.2**
	人を信頼する	32.3	48.3	26.8	48.2
	人から信頼される	23.8	58.6	7.3	**76.5**
	家族となんでも相談	10.3	24.1	7.3	44.7
	職場や仲間とよく話し合う	4.3	13.8	0.8	43.5
	人を頼る	20.9	31.0	**38.2**	11.8
	人から頼られる	38.3	**58.6**	22.0	**89.4**
	人を警戒する	6.7	**65.5**	52.8	8.2
	張り合いのある暮し	4.3	37.9	-	48.2
	生きがいのある生活	2.5	**37.9**	-	44.7
	規則正しい生活	10.6	37.9	2.4	44.7
	仕事をする意欲	25.2	**58.6**	14.6	**75.3**
	政治に関心がある	1.1	27.6	0.8	14.1
	自分の健康には注意	20.9	51.7	21.1	48.2
	何事にも意欲がない	12.8	31.0	56.9	3.5
	どちらかと言えば非能動的	32.6	31.0	6.5	**70.6**
	どちらかと言えば能動的	25.5	**62.1**	**80.5**	11.8
最終学歴	中学校卒業以下	**55.1**	34.5	32.5	28.2
	高校中退・	3.4	31.0	23.6	18.8
	高校卒業	34.5	24.1	25.2	30.6
	専門学校中退/卒・大学中退	3.4	6.8	11.4	13.0
	大学卒業以上	-	3.4	5.7	7.1

表１　女子受刑者「40~65 歳未満」集計表

力が必要な条件である

①-2　一般女子「40～65 歳未満」の類型

回答の類似性を説明する軸は、「張り合い、生きがいある」、「人からの信頼・人を信頼」⇔「意欲なし、悲観的、」（社会的・自己的充実軸）と「人を警戒・悲観的、周囲から離れる、社会に不満⇔「家族、生きがい、規則正しい生活」（安心な生活軸）である。項目別の個人別のスコアを元にクラスター分析し４群を作成した。

「第１群」(22.3%)安定型:約半数が勤労者で、家族や社会との関係も良好である。生活は規則正しく、楽天的で生きがいや張り合いのある生活をしている。しかし生活の満足感は高くなく、老後の生活設計や健康には不安もある高学歴な女性層である。

「第２群」（13.9%）孤立・他者依存型
勤労者が半数を占めている。「専業主婦」は 25%で学歴は高い。社会から距離を置き、悲観的な考え方が強く、様々な不満を持ちながら張りもなく暮らしている。多くは生活に満足せず、生きがいや張りのある暮らしとは無縁である。

「第３群」（9.9%）自立志向型：1 割程度の少数層「専業主婦」が 55%を占める。経済的にも恵まれ、家族や自分を大切にし、規則正しく生活している。学歴も高く、社会への関心も高い。仕事に意欲的で張りや生きがいのある生活をしている。

「第４群」（54,0%）：全体の半数以上を占める、自分に意見をあまり持たず政治などに関心の薄い普通の女子層」

①-3　「40～65 歳未満」の受刑者と一般との違い

受刑者は一般と比べて、「人からの信頼」は強いが、「人を頼ること」は少ない。「仕事への意欲」は強く、「規則正しい生活」があるなど一般以上に活動的であり、それだけに様々な欲求や考え方が生まれるといえる。「生きがい」などはどちらも多いとはいえないが一般では家族との関係が強い。

②「65 歳以上」の類型化

②―1　女子受刑者の「65 歳以上」の類型

項目別の類似性を説明する軸は、1 軸「生きがい・張り合い」⇔意欲なし、悲観的（活性軸）２軸は「人間・社会関係が良好な」⇔「疎外感」（社会・人間関係軸）。この項目別の個人別のスコアを元にクラスター分析し４群を作成した。

「第１群」（42.0%）：不安定型：
全体の 42%と最も多い。周囲へ関心は少なく、自分の健康にも関心を持たないひとがおおく、張り合いや生きがいが希薄である。学歴や仕事の収入も低く、窃盗犯が 84%と他の 3 群にくらべて最も多い。

「第２群」（28.4%）：自立型：「人から信頼され、頼られているが、頼ることは少ない。人間関係は悪くない。働く意欲はあるが就労率は低く経済的には恵まれず、張りのある暮らしはできていない。「窃盗」は 65 歳以上では少ない

「第３群」（11. 7%）安定型：1 割程度の少数層。経済的にも恵まれ、家族や自分を大切にし、社会への関心も高く、意欲的で張りや生きがいのある安定した生活をする女性層。

「第４群」（17.9%）　他者依存・孤立型：周囲から離れることが多く、警戒心も強く悲観的。我慢ができない性格で人に頼ることが多く自立し生きがいや張りの暮しは難しく、家族との関係にこだわってもいる。②－2　一般女子「65 歳以上」の類型説明軸は、1 軸「人からの信頼、

生きがい・人から頼られる」⇔「意欲なし、悲観的」（社会的・自己的充実軸）。2 軸は「人を警戒・悲観的・周囲から離れる・社会に不満」⇔「家族・生きがいい・規則正しい生活」（安心な生活軸）。この２軸の主成分負荷量によるクラスター分析を行い 4 群の類型を作成した。

「第１群」（3.2%）「自立志向型」：構成は非制度に常に少ない。学歴は高く、全員が、今の政治や社会の制度に不満をもっている。

		一般女子（40～65歳未満）N=202			
		第１群	第２群	第３群	第４群
N		45	28	20	109
構成比		22.3	13.9	9.9	54.0
平均年齢		52.8歳	50.1歳	49.8歳	51.5歳
同居者あり		91.1	78.6	95.0	86.2
自己認識	自分が家族のためにしなければならないことが多い	62.2	46.4	90.0	22.9
	周りの人から仲間外れになることが多い	-	14.3	-	-
	自分から周りの人たちと離れることが多い	-	60.7	40.0	4.6
	一人ぼっちだ	-	32.1	-	2.8
	人を信頼するほうだ	55.6	7.1	35.0	10.1
	人から信頼されるほうだ	71.1	7.1	20.0	13.8
	家族となんでも相談している	64.4	17.9	60.0	25.7
	職場や仲間とよく話し合っている	35.6	3.6	10.0	7.3
	いつ人から危害を加えられるかと心配だ	-	32.1	10.0	0.9
	人を頼るほうだ	6.7	14.3	10.0	4.6
	人から頼られるほうだ	48.9	10.7	35.0	10.1
	人から変な目で見られることが多い	-	21.4	5.0	0.9
	人を警戒するほうだ	6.7	53.6	40.0	9.2
	張り合いのある暮しをしている	53.3	-	35.0	2.8
	生きがいのある生活をしている	53.3	3.6	25.0	11.0
	規則正しい生活をしている	68.9	17.9	70.0	33.9
	仕事をする意欲がある	44.4	10.7	55.0	20.2
	政治に関心がある	37.8	28.6	45.0	9.2
	今の政治や社会制度に不満を感じている	31.1	42.9	45.0	12.8
	自分の健康には注意している	82.2	32.1	90.0	37.6
	何事にも意欲がない	-	46.4	-	4.6
	どちらかと言えば楽観的に物事を考える	53.3	-	30.0	18.3
	どちらかと言えば悲観的に物事を考える	-	82.1	40.0	11.0
	その他の自分の性格や印象	-	7.1	10.0	-
	いずれにも該当しない	-	-	-	5.5
	わからない	-	-	-	3.7
暮らしの満足度	満足している	4.4	-	5.0	-
	やや満足している	33.3	14.3	35.0	26.6
	あまり満足していない	28.9	35.7	30.0	27.5
	満足していない	4.4	42.9	25.0	15.6
	わからない	-	7.1	5.0	3.7
	不明	28.9	-	-	26.6
	満足計	37.7	14.3	40.0	26.6
	満足していない計	33.3	78.6	55.0	43.1
就労状況	定職に就いている	20.0	14.3	20.0	19.3
	派遣やパート・バイト・日雇	33.3	35.7	20.0	24.8
	家族の家業などの手伝いをしている	2.2	-	-	0.9
	専業主婦・主夫（パートなどしていない）	31.1	25.0	55.0	39.4
	その他	4.4	-	5.0	2.8
	働いていない	8.9	25.0	-	12.8
働いていない理由	働いていない人（N）	4	7	0	14
	病気で働けないから	25.0	57.1	-	7.1
	家事や子育て、介護や介助などに専念しているから	25.0	-	-	28.6
	学業に専念しているから	-	-	-	-
	仕事を探したが見つからないから	-	14.3	-	35.7
	仕事をする気がないから	25.0	-	-	14.3
	お金に困っていないから	-	14.3	-	28.6
	生活保護を受けているから	-	-	-	-
	その他	25.0	14.3	-	7.1
不安や悩み事	不安や悩みはある	71.1	100.0	100.0	73.4
	「ある人」に（N）	32	28	20	80
	老後の生活設計について	78.1	78.6	70.0	77.5
	自分の健康について	56.3	82.1	80.0	66.3
	現在の収入や資産について	37.5	71.4	45.0	43.8
	家族の健康について	71.9	53.6	65.0	47.5
	今後の収入や資産の見通しについて	50.0	60.7	35.0	37.5
	家族の生活上ことについて	31.3	39.3	35.0	16.3
	自分の生活上のことについて	12.5	10.7	5.0	8.8
	勤務先での仕事や人間関係について	-	21.4	10.0	6.3
	家族・親族間の人間関係について	6.3	42.9	20.0	16.3
	事業や家業の経営上のことについて	3.1	3.6	-	2.5
	近隣・地域との関係について	3.1	17.9	15.0	3.8
	事業や家業の後継者のことについて	-	-	-	-
	災害や事故のことについて	18.8	25.0	45.0	13.8
	犯罪の被害のことについて	-	14.3	5.0	6.3
	相談できる人はだれもいない	-	28.6	10.0	10.1
住居	アパート	2.2	14.3	15.0	9.2
	マンション	44.4	32.1	35.0	41.3
	自宅	51.1	46.4	50.0	42.2
最終学歴	高校中退	-	-	5.0	0.9
	高校卒業	22.2	35.7	25.0	26.6
	短大、専門学校中退	-	7.1	5.0	1.8
	短大、専門学校卒業	28.9	39.3	25.0	30.3
	大学中退	-	-	-	-
	大学卒業以上	48.9	17.9	40.0	38.5

表２　女子受刑者「40~65 歳未満」集計

少数：構成比（%） 太文字の数値:検定1%未満 年齢不明、対象質問無回答者は除外		65歳以上の高齢女子受刑者 全体 N=162			
		第１群	第２群	第３群	第４群
（母数:実数）		68	46	19	29
構成比（%）		42.0	28.4	11.7	17.9
調査時の平均年齢（歳）		72.6歳	72.3歳	71.8歳	71.6歳
就労	定職に就いていた	8.8	17.4	31.6	13.8
	有期・派遣やパートやアルバイト	8.8	21.8	32.1	20.7
	働いていなかった	69.1	41.3	26.3	51.7
その理由	病気で働けなかったから	17.0	10.5	-	40.0
	お金に困っていなかったから	10.6	21.1	40.0	6.7
	生活保護を受けていたから	23.4	15.8	20.0	33.3
属性	自分や家族の持ち家やマンション	44.1	51.2	63.2	48.3
	夫・パートナーがいた	41.2	37.0	42.1	31.0
困ったことや悩み	自分の健康	27.3	40.5	57.1	73.1
	家族の健康	14.5	27.0	28.6	30.8
	家族との関係	14.5	40.5	42.9	19.2
	毎日の生活費	14.5	32.4	14.3	19.2
	自分の性格	7.3	13.5	7.1	23.1
	孤独なこと	9.1	8.1	21.4	19.2
	信頼する相談相手がいないこと	14.5	13.5	21.4	26.9
犯行時の生活費	仕事の収入	10.3	21.7	57.9	27.6
	年金	55.9	58.7	63.2	62.1
	預貯金	17.6	17.4	36.8	27.6
	夫・パートナーの収入	25.0	19.6	15.8	17.2
	生活保護	20.6	19.6	10.5	20.7
収入	個人の平均月収指数(平均=1)	0.57	0.85	2.19	1.26
	個人小遣い月平均指数(平均=1)	0.37	0.60	2.81	1.52
	世帯平均月収指数(平均=1)	0.50	0.61	3.52	0.70
犯罪の原因	自分が我慢できなかった	25.0	28.3	21.1	48.3
	お金が欲しかった	20.6	23.9	21.1	24.1
	品物が欲しかった	27.9	28.3	31.6	20.7
	車をやりたかった	-	6.5	-	-
出所後の生活費	仕事の収入	7.4	13.0	31.6	17.2
	生活保護	29.4	21.7	15.8	17.2
	年金	57.4	69.6	73.7	69.0
	預貯金	25	37.0	57.9	31.0
	夫・パートナーの収入	17.6	10.9	21.1	24.1
希望する暮らし	再び犯罪をしないようにする	73.5	69.6	73.7	86.2
	他人に迷惑をかけないようにしたい	67.6	63.0	47.4	55.2
	家族と一緒にくらしたい	33.8	54.3	47.4	58.6
	仕事中心に生活する	7.4	6.5	15.8	17.2
罪名	窃　盗	83.8	56.5	68.4	72.4
	薬　物	1.5	10.9	-	3.4
クラスター分析に使用した主な質問	家のためにすることが多い	26.5	34.8	52.6	27.6
	自分から周りの人たちと離れる	5.9	-	15.8	58.6
	一人ぼっち	20.6	8.7	26.3	37.9
	人を信頼する	10.3	54.3	57.9	20.7
	人から信頼される	11.8	65.2	78.9	17.2
	家族となんでも相談	14.7	26.1	42.1	17.2
	職場や仲間とよく話し合う	1.5	8.7	57.9	3.4
	人を頼る	7.4	2.2	10.5	27.6
	人から頼られる	8.8	67.4	84.2	10.3
	人を警戒する	5.9	-	21.1	34.5
	張り合いのある暮し	4.4	17.4	63.2	13.8
	生きがいのある生活	1.5	26.1	84.2	17.2
	規則正しい生活	14.7	32.6	68.4	31.0
	仕事をする意欲	19.1	45.7	63.2	44.8
	政治に関心がある	2.9	10.9	73.7	10.3
	自分の健康には注意	48.5	54.3	89.5	69.0
	何事にも意欲がない	5.9	2.2	5.3	20.7
	どちらかと言えば楽観的	17.6	45.7	63.2	20.7
	どちらかと言えば悲観的	13.2	4.3	10.5	48.3
最終学歴	中学校卒業以下	44.1	32.6	31.6	29.7
	高校中退・高校卒業	11.8	15.2	10.5	17.4
	高校卒業	27.9	28.3	36.8	34.0
	専門学校中退/卒・大学中退	10.3	15.2	10.6	12.1
	大学卒業以上	1.5	4.3	5.3	5.7

表３　女子受刑者「65 歳以上」集計表

しかし、自分の健康には注意している。また、多くが悲観的な意識や人への警戒心を持つが、人から信頼され、仕事をする意欲はあるが、生きがいがのある暮らしをしている人はわずかである。

「第２群」(38.5%)　「不安定型」: 専業主婦が 75%で、家計や暮らしの不満も比較的少ない。働く気がなく、社会の動向や自分の主張も少なく、生きがいや張り合いのある人は２割程度と少ない。こうした不十分な生活基盤の生活は不安定で高齢社会の典型にならないよう注視が必要である。

「第３群」(15.5%)　「他者依存型」: 構成は 16%と少ない。半数は専業主婦で働いている人は少ない。生活に生きがいや張り合いにある人は少なく、生活の不満や老後の悩みがあり、人から頼られることも少なく社会に不満を持ち悲観的な意識が強く自立できない。

「第４群」(42.8%)「安定型」: 周囲からの信頼も厚く、生活も規則正しく、生きがいや張り合いのある安定した暮らしをし、不安や悩みは比較的少ない。

②-3　「65 歳以上」の受刑者と一般の違い

「65 歳以上」でも 40～65 歳未満」でも受刑者は、一般より「人との信頼関係」、「仕事への意欲」などが高い。一般が高いのは、「家族関係」「生きがい」「政治への関心」などであるが、「何事にも意欲がない」「自分の健康に注意」「悲観的」が増加。。

（２）　学術図書「高齢者犯罪の総合的研究―社会保障、雇用、家族、高齢化を視野に比較文化的に考察する―」の刊行に向けて

2020 年度科学研究費助成事業研究成果公開促進費交付内定を受けて、2021 年 2 月末刊行に向けて、総勢 19 人の執筆者(研究者)はこれまでの執筆原稿(研究報告)を精査し、その準備に取り掛かっている

本書は、わが国において、平成元年より一貫して増え続けている「高齢者の犯罪」について、複眼的な視野で、総合的にまとめた体系的な研究成果である、政府(警察庁・法務省)以外で初めて刊行するものである。本体を構成している研究グループは、社会学、社会心理学、社会福祉学、刑事司法政策学の分野の研究者で、日本、海外からは(ニュージーランド、オーストラリア、韓国、台湾、香港、イギリス・ウェールズ、アメリカ合衆国)と、まさに国際的なメンバーによって構成されている。本体の中心は、わが国の全国の刑務所の受刑者 1,498 人を対象にした調査、海外の 3 か国、ニュージーランド、オーストラリア、香港の受刑者、それぞれ 52 人、77 人、74 人に対して、ほぼ同様な理論的な枠組みで構成された調査を実施したもので、いわば実証的な研究の成果といえる。それに加えて、

		一般女子			
		（65歳以上）　N=187			
		第１群	第２群	第３群	第４群
N		6	72	29	80
構成比		3.2	38.5	15.5	42.8
平均年齢		72.3歳	71.1歳	72.0歳	71.5歳
同居者あり		83.3	81.9	72.4	81.3
自己認識	自分が家族のためにしなければならないことが多い	50.0	23.6	20.7	46.3
	周りの人から仲間外れになることが多い	-	-	-	-
	自分から周りの人たちと離れることが多い	50.0	-	20.7	-
	一人ぼっちだ	-	1.4	3.4	1.3
	人を信頼するほうだ	50.0	18.1	31.0	57.5
	人から信頼されるほうだ	83.3	15.3	27.6	71.3
	家族となんでも相談している	50.0	37.5	24.1	68.8
	職場や仲間とよく話し合っている	50.0	5.6	6.9	25.0
	いつ人から危害を加えられるか心配だ	-	1.4	-	-
	人を頼るほうだ	-	2.8	6.9	2.5
	人から頼られるほうだ	66.7	13.9	10.3	67.5
	人から変な目で見られることが多い	-	1.4	-	-
	人を警戒するほうだ	83.3	-	17.2	-
	張り合いのある暮しをしている	50.0	22.2	13.8	58.8
	生きがいのある生活をしている	16.7	20.8	10.3	75.0
	規則正しい生活をしている	66.7	54.2	51.7	77.5
	仕事をする意欲がある	83.3	4.2	31.0	32.5
	政治に関心がある	100.0	19.4	41.4	58.8
	今の政治や社会制度に不満を感じている	100.0	13.9	55.2	35.0
	自分の健康には注意している	100.0	66.7	82.8	92.5
	何事にも意欲がない	-	5.6	3.4	-
	どちらかと言えば楽観的に物事を考える	-	38.9	20.7	57.5
	どちらかと言えば悲観的に物事を考える	66.7	-	41.4	1.3
	その他の自分の性格や印象	16.7	-	6.9	5.0
	いずれにも該当しない	-	2.8	-	-
	わからない	-	-	-	-
暮らしの満足度	満足している	-	2.8	3.4	-
	やや満足している	-	22.2	20.7	27.5
	あまり満足していない	50.0	23.6	44.8	26.3
	満足していない	50.0	6.9	17.2	3.8
	わからない	-	2.8	-	1.3
	不明	-	41.7	13.8	41.3
	満足計	-	25.0	24.1	27.5
	満足していない計	100.0	30.5	62.0	30.1
就労状況	定職に就いている	-	1.4	3.4	5.0
	派遣やパート・バイト・日雇	16.7	2.8	10.3	18.8
	家族の家業などの手伝いをしている	-	1.4	3.4	-
	専業主婦・主夫（パートなどしていない）	33.3	75.0	51.7	57.5
	その他	16.7	-	3.4	3.8
	働いていない	33.3	19.4	27.6	15.0
働いていない理由	働いていない人（N）	2	14	8	12
	病気で働けないから	-	-	12.5	8.3
	家事や子育て、介護や介助などに専念しているから	-	7.1	-	-
	学業に専念しているから	-	-	-	-
	仕事を探したが見つからないから	100.0	-	12.5	8.3
	仕事をする気がないから	-	21.4	-	16.7
	お金に困っていないから	-	14.3	25.0	16.7
	生活保護を受けているから	-	-	12.5	-
	その他	-	57.1	37.5	58.3
不安や悩み事	不安や悩みはある	100.0	58.3	86.1	58.8
	「ある人」に（N）	6	42	25	47
	老後の生活設計について	33.3	28.6	56.0	51.1
	自分の健康について	83.3	66.7	80.0	87.2
	現在の収入や資産について	50.0	11.9	28.0	23.4
	家族の健康について	83.3	40.5	40.0	70.2
	今後の収入や資産の見通しについて	16.7	7.1	20.0	34.0
	家族の生活上ことについて	33.3	7.1	12.0	19.1
	自分の生活上のことについて	16.7	-	-	-
	勤務先での仕事や人間関係について	-	-	-	-
	家族・親族間の人間関係について	16.7	4.8	16.0	8.5
	事業や家業の経営上のことについて	-	-	-	-
	近隣・地域との関係について	16.7	7.1	4.0	6.4
	事業や家業の後継者のことについて	-	-	-	2.1
	災害や事故のことについて	33.3	16.7	20.0	31.9
	犯罪の被害のことについて	16.7	2.4	4.0	4.3
	相談できる人はだれもいない	-	4.2	13.8	3.8
住居	アパート	16.7	2.8	3.4	1.3
	マンション	-	29.2	24.1	27.5
	自宅	83.3	62.5	65.5	65.0
最終学歴	高校中退	-	-	-	-
	高校卒業	50.0	44.4	37.9	53.8
	短大、専門学校中退	-	2.8	3.4	2.5
	短大、専門学校卒業	-	18.1	34.5	17.5
	大学中退	-	-	3.4	-
	大学卒業以上	50.0	31.9	17.2	23.8

表４　一般女子「65 歳以上」集計表

各国の高齢者犯罪の実情、動向、政策などを、専門分野に応じて執筆してもらった。各国が共通に抱いている「高齢化と犯罪」の問題も、国によってその内容、課題は異なっている。その中でも、日本は、最も急速に高齢化の波が押し寄せ、高齢者の犯罪が社会問題として取り上げられ、問題意識に迫られてはるが、今日まで、体系的な、しかも実証的な研究はほとんどなされずいる。本書を刊行することで、世界で共通に抱えつつある「高齢化と犯罪」の問題を、広く共有し、一足先に本テーマに取り組んだわが国の実情や研究手法を提供することで、必ずや他国の人たちの生活・治安にとって役立つものと考える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計18件（うち査読付論文　18件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 古川隆司	４．巻 7号
２．論文標題 刑事処分を受けた者の社会復帰支援の現況と課題　-地域生活定着促進事業10年をむかえて-	５．発行年 2018年
３．雑誌名 龍谷大学矯正・保護総合センター研究年報	６．最初と最後の頁 40-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 古川隆司	４．巻 56巻
２．論文標題 平成30年版犯罪白書「進む高齢化と犯罪」について	５．発行年 2019年
３．雑誌名 罪と罰	６．最初と最後の頁 221-230
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 古川隆司	４．巻 13号
２．論文標題 「思い出の倫理」の公共性と社会的孤立へのアプローチ	５．発行年 2019年
３．雑誌名 豊岡短期大学論集	６．最初と最後の頁 61-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 辰野　文理	４．巻 55巻1号
２．論文標題 平成29年版犯罪白書を読んで（平成29年版犯罪白書）	５．発行年 2017年
３．雑誌名 罪と罰	６．最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 辰野　文理	4．巻 68巻6号
2．論文標題 更生保護における犯罪被害者等施策（特集 更生保護法成立から10年）	5．発行年 2017年
3．雑誌名 更生保護	6．最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平山　真理	4．巻 71巻1号
2．論文標題 平成29年版犯罪白書を読んで ： 特集部分に関して（特集 更生を支援する地域のネットワーク ： 平成29年版犯罪白書を読む）	5．発行年 2018年
3．雑誌名 法律の広場	6．最初と最後の頁 14-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 河原　理子　平山　真理	4．巻 32巻1号
2．論文標題 専門ゼミ特別講義録 河原理子氏「犯罪被害者報道を考える」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 白鴎大学論集	6．最初と最後の頁 225-259
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鴨志田 祐美 ， 平山 真理	4．巻 23巻2号
2．論文標題 科研費公開講演会講演録 鴨志田祐美弁護士 大崎事件から見える刑事司法の問題点	5．発行年 2017年
3．雑誌名 白鴎法学	6．最初と最後の頁 185-230，
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 細井洋子、辰野文理	４．巻 128巻4号
２．論文標題 「高齢女子受刑者の生活世界に関する調査」報告	５．発行年 2017年
３．雑誌名 刑政	６．最初と最後の頁 24-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 古川 隆司	４．巻 41巻
２．論文標題 犯罪研究動向 高齢者犯罪に関する研究動向	５．発行年 2016年
３．雑誌名 犯罪社会学研究	６．最初と最後の頁 98-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 古川　隆司	４．巻 180号
２．論文標題 高齢犯罪者の社会復帰支援の取り組みの現状と課題-矯正と保護の連携を中心に-	５．発行年 2015年
３．雑誌名 犯罪と非行	６．最初と最後の頁 55-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 古川　隆司	４．巻 10号
２．論文標題 ポーランドにおける「刑事司法と社会福祉の連携」	５．発行年 2016年
３．雑誌名 追手門学院大学社会学部紀要	６．最初と最後の頁 53-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宿谷晃弘、安成訓、五十嵐弘志	4．巻 II 67
2．論文標題 Restoration of the Elderly Offender : Theoretical Memorandum before Research	5．発行年 2016年
3．雑誌名 東京学芸大学紀要,人文社会科学系	6．最初と最後の頁 139-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 細井洋子、小柳武、古川隆司、渡辺芳、John Pratt	4．巻 2014年度研究助成実績
2．論文標題 高齢受刑者の生活キャリアと生活意識の変遷	5．発行年 2015年
3．雑誌名 公益財団法人　日工組社会安全研究財団　研究助成実績ホームページ	6．最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 細井　洋子、小柳　武、古川　隆司	4．巻 125(12)
2．論文標題 「高齢受刑者の生活世界に関する調査」報告	5．発行年 2014年
3．雑誌名 刑政	6．最初と最後の頁 62-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 細井　洋子、五十嵐　弘志	4．巻 123(50)
2．論文標題 罪を犯した人たちと共に生きる ：「マザーハウス」の取り組み	5．発行年 2015年
3．雑誌名 NCCD	6．最初と最後の頁 43-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古川　隆司	4．巻 51(4)
2．論文標題 司法と福祉の架け橋：社会復帰支援における連携と倫理的課題	5．発行年 2014年
3．雑誌名 罪と罰	6．最初と最後の頁 92-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古川　隆司	4．巻 67-6
2．論文標題 社会福祉・老年学からみた高齢者犯罪（特集 高齢者犯罪対策）--（社会安全フォーラム 高齢者犯罪の実態と対策）	5．発行年 2014年
3．雑誌名 警察學論集	6．最初と最後の頁 18-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計14件（うち招待講演　0件／うち国際学会　9件）

1．発表者名 古川隆司、Dublin, Ireland, 藤原正範・村尾泰弘ほかと共同
2．発表標題 The Role of Social Workers in Facilitation the Rehabilitation of Offenders in Japan
3．学会等名 Social Work, Education and Social Development　2018 in Dublin　（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 古川　隆司
2．発表標題 被害者支 援にみる司法領域でのソーシャルワークの貢献
3．学会等名 2017年度韓国社会福祉学会大会（大韓民国）（国際学会）
4．発表年 2017年

１．発表者名 古川　隆司
２．発表標題 Social incidents committed by persons with dementia and rational consideration against discrimination of law for persons with disability
３．学会等名 32回国際アルツハイマー病協会国際会議（京都）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 古川　隆司
２．発表標題 介護殺人後の加害者に対するアフターケアの欠落と課題
３．学会等名 日本老年社会科学会第59回大会（名古屋）
４．発表年 2017年

１．発表者名 古川　隆司
２．発表標題 大会シンポジウム「生きづらさを抱える高齢者の社会統合～司法福祉の観点から考える～」発題
３．学会等名 日本司法福祉学会第18回大会(東京)
４．発表年 2017年

１．発表者名 小柳　武
２．発表標題 Current Trends on Drug Abuse and the Treatment of Drug Abusers in Japan
３．学会等名 第５回アジア薬物学会台湾大会（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 古川　隆司
２．発表標題 高齢犯罪者の「再犯に陥る状況」の理解
３．学会等名 日本老年社会科学会第57回大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 FURUKAWA Takashi
２．発表標題 A Socially Value to Support and Rehabilitation to the Elderly Offenders in Japan
３．学会等名 17th International Conference on Criminology and Sociology（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 古川　隆司
２．発表標題 高齢犯罪者の「再犯に陥る状況」の理解
３．学会等名 日本社会福祉学会第63回秋季大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 FURUKAWA Takashi
２．発表標題 Elderly as the presence of certain risk and the Isolation in Japan
３．学会等名 The 10th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania 2015 Congress（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 HIRAYAMA Mari
２．発表標題 Lay Participation and Victims Inputs-How These Two Key Factors Have Changed the Criminal Justice System After Late 90’s
３．学会等名 The 4th East Asian Law & Society Conference（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 HIRAYAMA Mari
２．発表標題 Transparency of Prisons in Japan?-Roles and Significance of Prison Visitation Committee
３．学会等名 The 4th East Asian Law & Society Conference（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 HIRAYAMA Mari
２．発表標題 Have Sentencing Patterns Changed Since the lay Judge System Started: With a Special Focus on Sex Crime Cases
３．学会等名 2015 Annual Meeting of Law and Society Association（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 古川　隆司
２．発表標題 高齢者犯罪と社会復帰の条件に関する研究（1）
３．学会等名 日本犯罪社会学会第 41 回大会
４．発表年 2014年

〔図書〕　計2件

1．著者名 辰野文理　小西暁和編	4．発行年 2019年
2．出版社 成文堂	5．総ページ数 23
3．書名 石川正興先生古稀祝賀論文集	

1．著者名 古川　隆司	4．発行年 2017年
2．出版社 法律文化社	5．総ページ数 248ページ
3．書名 加藤幸雄・前田忠弘監修，藤原正範・古川隆司編『司法福祉第2版』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	平山　真理 (HIRAYAMA MARI) (20406234)	白鴎大学・法学部・教授 (32204)	
研究分担者	辰野　文理 (TATSUNO BUNRI) (60285749)	国士舘大学・法学部・教授 (32616)	
研究分担者	古川　隆司 (FURUKAWA TAKASHI) (60387925)	追手門学院大学・社会学部・准教授 (34415)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	渡辺　芳 (WATANABE KAORU) (70459832)	東洋大学・人間科学総合研究所・客員研究員 (32663)	
研究分担者	宿谷　晃弘 (SHUKUYA AKIHIRO) (80386531)	東京学芸大学・教育学部・准教授 (12604)	
研究分担者	小柳　武 (KOYANAGI TAKESHI) (90576216)	常磐大学・総合政策学部・教授 (32103)	